

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学概論	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	橋本 笑子(臨床経験11年、教育経験21年)				
科目目標	1. ライフサイクルにおける成人期の特徴、および成人看護の機能と役割を理解する。				
授業概要	<p>第1回 成人期にある対象の特徴(ライフサイクルにおける成人期、成人期の発達課題と危機) (講義)</p> <p>第2回 成人期にある対象の特徴(生涯発達の特徴:青年期、壮年期、中年期、向老期) (GW)</p> <p>第3回 成人期にある対象の特徴(成人と生活)</p> <p>第4回 成人期対象に特有な健康問題(統計データからみた成人期の生活と健康) (講義)</p> <p>第5回 成人期対象に特有な健康問題(生活と健康をまもりはぐくむシステム)</p> <p>第6回 成人期への看護アプローチに基本(健康行動を生みはぐくむ援助、健康問題をもつ大人と看護師の人間関係、大人の学習、集団へのアプローチ、チームアプローチ) (講義)</p> <p>第7回 成人期への看護アプローチに基本(看護におけるマネジメント、看護実践における倫理的判断 新治療・先端医療における倫理的判断を含む)、意思決定支援(家族支援) (講義)</p> <p>第8回 健康レベルに対応した看護(健康生活から急激な破綻から回復を促す看護) (講義)(GW)</p> <p>第9回 健康レベルに対応した看護(慢性病と共存を支える看護) (講義)</p> <p>第10回 健康レベルに対応した看護(障害がある人の生活とリハビリテーション) (講義)(GW)</p> <p>第11回 健康レベルに対応した看護(人生に最後の時を支える看護) (講義)(GW)</p> <p>第12回 治療過程にある患者への看護技術(治療による身体侵襲からの回復促進のための看護技術、安全を援助する看護技術、回復阻害要因の排除による安全の確保) 講義</p> <p>第13回 治療過程にある患者への看護技術(日常生活機能の保護・維持と社会復帰に向けた看護技術、ボディイメージの変化に対する看護技術) (講義)(GW)</p> <p>第14回 症状マネジメントにおける看護技術 (講義)(演習)</p> <p>第15回 療養の場を移行する人々への看護技術 講義 客観テスト</p>				
看護師国家試験出題基準	<p>第1回～5回キーワード エリクソンの発達理論、ハヴィガーストの発達課題、青年期・壮年期・中年期・向老期の身体的・心理・社会的特徴(第二次的徴 アイデンティティと忠誠心、時間的展望、子どもと両親との関係の発達段階、親密性と愛、生殖性と世話、更年期、基礎代謝の変化、空の巣症候群など)、危機(発達危機、状況危機、消耗性危機、ショック性危機)経済、年齢と諸機能の推移、ライフスタイル、リストラ過労死、ライフワークバランス、雇用形態、労働環境、ストレスと対処、ストレスコーピング(問題・情動中心型、ラサルス、総人口、年齢別人口(年少・生産年齢・高齢者人口)、少子・高齢化率、家族形態と機能、日常生活の状況、運動・飲酒・喫煙習慣)、生態生活環境(水空気土壌、食品衛生、住・社会環境)</p> <p>平均寿命、健康寿命、主要死因別に見た死亡率の推移、年齢階級別に見た死因順位とその背景、受療行動、受療率(入院・外来)、国民医療費、健康日本21、健康増進法、新健康フロンティア戦略、生活習慣病の要因と是正、特定保健診査、特定保健指導、メタリックシンドローム、障害者基本法、がん対策基本法、がん対策推進基本計画、心の健康、大人の健康、ヘルスポモーションモデル、ノーマライゼーション、WHOの健康の定義、QOL</p> <p>生活習慣病の発症因子と予防、生活習慣病の発生状況、7つの健康習慣、職業性疾患の要因と健康診断の受診行動、就労条件・環境と疾病との関係、雇用形態、ワークライフバランス、生活ストレスと健康問題、ストレス関連疾患の要因、ストレス対処方法</p> <p>第6回～7回キーワード 1) 大人の学習アンドラゴジー、学習理論(ハンチンジャー) 2) 健康問題を持つ大人と看護師の人間関係 3) 人々の集団における調和や変化を促す 4) チームアプローチ 5) 看護におけるマネジメント(カリテーター・インディケーター、ケースマネジメント、クリニカルパス・リアリス、リスクマネジメント、ケアマネジメント) 6) 看護実践における倫理的判断(基本的人権の擁護、医の倫理の原則、看護倫理7P、看護師の倫理綱領)、葛藤と対応 7) 意思決定支援(医療倫理の四分割表、インフォームドコンセント、インフォームドチョイス、人権擁護7Dボカシー、代理意思決定 支援など) 8) 家族支援(疾患が患者・家族に与える心理・社会的影響、患者・家族会活用支援) 9) 社会的支援獲得への看護(医療費助成制度・身体障害者福祉法に基づく社会資源の活用)</p>				

科目区分	専門分野Ⅱ	科目名	成人看護学概論	対象学生	第1学年
		単位数(時間数)	1単位(30H)	学 期	第2学期
担当講師	橋本 笑子(臨床経験11年、教育経験21年)				
<p>第8回～15回キーワード</p> <p>健康生活の急激な破綻から回復を促す看護、慢性病との共存を支える看護:セルフマネジメント、セルフモニタリング、首尾一貫感覚、健康信念モデル(ヘルスビリーブモデル)、コントロールの所在(ローカルオペーコントロール)、コンプライアンス(アドヒアランス)、症状マネジメント(がん性疼痛、放射線・がん薬物療法)、自己効力、エンパワメント、自己モニタリング、障害がある人の生活とリハビリテーション、WHOの国際生活機能分類、ADL、IADL、老研式活動能力指標、障害受容、人生の最期のときを支える看護:全人的苦痛、ホスピス、緩和ケア病棟、在宅ターミナル、エンドオブ ライフケア、アドバンスケアプランニング、死の判定、脳死、全人的苦痛、緩和的観察、デスエジュケーション</p> <p>治療過程にある患者への看護技術、療養の場を移行する人々への看護技術、退院調整(退院連携パス、継続看護、多職種連携、医療費助成制度の活用、社会参加支援(就労条件・環境の調整、社会参加を促す要素と阻害要因)、ホスピタリティの変化と看護、がんとの共生を促す看護技術、新たな治療法・先進医療と看護(移植・再生医療、臨床治験、遺伝医療)</p> <p>中範囲理論:ストレスコピング理論、危機理論(フィンクの危機理論、アギユラとメズニックの危機介入モデル)、障害受容過程(コーンなど)、トランスセオレティカルモデル、病みの軌跡、自己効力感(社会的学習理論)、セルフマネジメント、コンプライアンス、アドヒアランス、死の準備過程、死の受容過程</p>					
授業の進め方					
成人各期の特徴は、身近な成人に関する学習課題や事例をもとに、グループワークで理解が深まるように授業を展開する。看護学概論、基礎看護援助論Ⅱの学習内容を想起しながら進める。					
履修のポイント・留意事項					
成人看護学全般に関わる基礎理論として位置づける。生態系や社会の動向をふまえたうえで、成人期にある生活する対象を、発達段階の特徴に応じて身体的・精神的・社会的側面から統合的に捉えられるように学習する。ライフサイクルにおける成人各期の特徴は、個人ワークやグループワークにて主体的学習を基本とし、調べる、考えることから自ら学びを深める学習を期待する。					
テキスト					
系統看護学講座 成人看護学[1] 成人看護学総論 医学書院 厚生指針 国民衛生の動向 一般財団法人厚生労働統計協会 ※参考文献は必要時提示する					
評価方法・配点					
課題レポート・授業への参加状況20点、筆記試験80点で評価する。					